

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2023C-22				
研究開発課題名	小児の下肢痛・跛行に対する股関節 Point-of-Care Ultrasound を用いた診療アルゴリズムについての記述研究/診断精度研究				
分類*	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input checked="" type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input checked="" type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S
主任研究者	所属	救急診療部			
	役職	医員			
	氏名	富田 慶一			
実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日				

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

本研究の目的は、下肢痛・跛行を主訴に受診した小児患者を対象とし、股関節POCUSを用いた診療アルゴリズムを導入して診療を行い、「股関節POCUSを用いた診療アルゴリズムにおける単純性股関節炎についての診断精度研究」および「診療アルゴリズムの安全性、侵襲的処置の施行率、最終診断の疾患分布などを検討する記述研究」のふたつの前方視的研究を行うことである。

本年度の目標として、多年度あるいは多施設研究を行うための基盤づくりのため、以下の3点を計画した。第一に、股関節POCUSを用いた診療アルゴリズムを導入し、診療体制を確立・維持すること。第二に、股関節POCUSの検査画像を継続評価し、逐次フィードバックを行うこと。第三に、一定の期間のパイロット研究を行い、診療アルゴリズムの有用性や安全性について当施設での評価を行い報告することである。

第一の目標については、準備段階として2023年1月より診療アルゴリズムや診療テンプレートを臨床現場に導入して推敲し、同4月より実際に研究を開始したが、以降、運用上の問題なく診療体制を維持できている。第二の目標については、2023年4月以降、小児放射線科医と共に保存された超音波検査画像の質について全例検討し、科内カンファレンスなどで画像の質の向上のためのフィードバックを行う体制を構築し、継続している。第三の目標について

は、2023年4月～7月の4か月間の情報を収集し、「小児の下肢痛・跛行に対する股関節 Point-of-Care Ultrasound を用いた診療アルゴリズムに関する記述研究（中間報告）」として、2024年度の日本小児科学会学術集会で報告を行った。本年度は91症例が本研究の対象となり、股関節 POCUS を用いた診療アルゴリズムにおける単純性股関節炎についての診断精度研究の対象となるリスク因子陰性患者は34例、診療アルゴリズムの診断精度は感度 94.4%、特異度 93.6%と先行研究と遜色のない結果となっている。また、現時点で関節機能予後に影響する合併症を来した例の発症はない。